

九条ブログはらまち

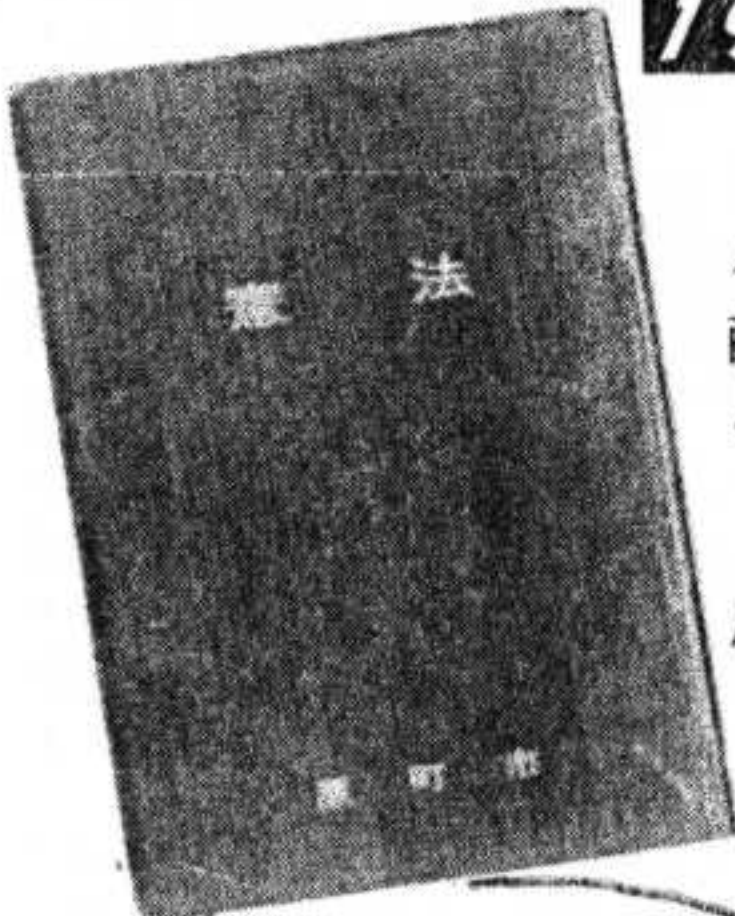
「はらまち九条の会」ニュース No. 23

2007(平成19)年5月5日(土)発行



「終戦から6年後の1951(昭和26)年5月5日は、児童憲章が制定された日」 「児童は、人として尊ばれる、社会の一員として重んぜられる、よい環境のなかで育てられる」

1971年5月原町市発行「憲法」の冊子の復刻版を 発行してみてもどうでしょう!



小高や原町の『日本の青空』上映会の時、上映実行委員長の若松丈太郎さんが挨拶の中で、今から36年前の1971(昭和46)年、山田貢市長の時代に、原町市が発行して市内全戸に配布した『憲法』という冊子を紹介されました。冊子はエンジ色の表紙で、<左のコピー>のように、たて11センチ、横7.5センチ、山田市長の「憲法の意義」の挨拶文があり、日本国憲法・教育基本法・児童憲章を掲載し、全60ページの立派なものです。これは当時の市民団体の「原町憲法を守る会」(会長広瀬正弘・副会長古山哲朗・事務局長相良利信)の運動で行政当局を動かして、原町市の全戸約1万の家庭に配られた冊子です。

憲法改定が動きだしている今、「はらまち九条の会」、あるいは小高九条の会や鹿島九条の会とともに、発行元の原町市(南相馬市)の許可をいただき、復刻版を発行して広く市民に広めることも、意義のあることと思われませんが、どうでしょう。印刷経費は『日本の青空』上映会の益金を充てるのも一方法です。ご意見をお寄せください。

さらに、その「憲法」の冊子を使い

「市民で憲法全文を読み上げる会」

などという会を開催してもおもしろいかも?

さらにその冊子を使い、憲法のすべて(前文・103条)を市民により、何時間かかろうが大きな声で読み上げる会、などということを開くのもいいかな、などと考えています。憲法は古い、変えろなどと言っている人も案外、憲法のすべての条文など読んでいないものです。これも一つの立派な「学習会」となるのではないのでしょうか。どうでしょう。

事務局より

- 「はらまち九条の会」会員も322名となりました。
- ここ数ヶ月、憲法記念日期間限定の“ご祝儀番組”なのか、珍しくNHKテレビなどが、タブーのはずの「憲法制定に関する番組」を企画、編集し放映しています。ダビングしてあり貸し出できますので事務局へお申し出ください。
- ①NHK2月10日放映・5月6日再放送
「焼け跡から生まれた憲法草案」90分
- ②NHKスペシャル 4月29日放映
「日本国憲法誕生」75分
- ③TUF(テレビユー福島)イブニング6・5月2日放映
「日本国憲法のルーツ」(鈴木安蔵と『日本の青空』小高上映会)8分
- ④NHKその時歴史が動いた・5月2日放映
「憲法九条、平和への闘争」45分
- 5月3日付「朝日新聞」には全1ページで「九条実現の意見広告」が掲載され、会員や知っている方の名前も多く、少し嬉しくなりました。(山崎)

松元ヒロ・ソロライフ

6月22日(金)

午後7:00~8時20分

会場:サンライフ南相馬

入場料:500円

まもなくチケットを販売開始!

松元ヒロは1952年鹿島県生まれ。全国各地で護憲のコントライブを展開している大変人気のあるコメディアンです。特に憲法前文を一気呵成に読み上げたり、迫力もあり感動的です。

また、現在交渉中ですが、この会を他の相双地区九条の会との共催にして、同時に情報交換の交流会(5:30~6:30)も計画中です。



「日本の青空」上映会を開催して <上映実行委員・事務局員からの一言>

○製作者や大澤監督の苦労話を聞いて・・○憲法制定の真実を知ることができた
○「押しつけられようが、いいものはいい」と言った白洲次郎の言葉は重い!

○「どんな映画なのか」と横目で見えていた当初でしたが、お手伝いしてきた中でお聞きした監督の「九条の会発足記念講演会に出席して、日本を戦争をする国にしないために、自分にも何か出来る事はないかと思い、憲法を扱った映画造りを考えた」と言う話、そして製作委員長の「まだまだ製作資金が足りなくて支払いもできず、自分は年金を生活費に充てている」という話等が強く私の中に残りました。「こんな事をして赤字を出してはおかしいよ」と思い、自分の困りの人達にお願いして精一杯入場券販売に協力していただきました。史実に基づいたこの映画を通して、「押しつけでない民主憲法が生まれた経緯がみんなにしっかり届いていたら、うれしいと思っています。また映画については、私自身よく知らなかった現憲法の製作過程が良く理解できて、むずかしい問題を映画化した製作者の御苦労を感じました。特に「基本的人権(女性の地位等)」「天皇の地位」「戦争の放棄」等について、良くわかりました。(番場恵子)

○これまで憲法は、GHQ(占領軍総司令部)が独自に作成したものと信じていたが、この映画に出会い真実を知った。理念は、人に夢と希望を与え、生きる活力となる。まさに日本国憲法は、戦争を経験した日本人が、平等と平和を求める心を映した世界に誇る憲法である。この平和憲法が、いつまでも『日本の青空』であるよう守り続けよう。(小川尚一)



○穴戸開が演ずる白洲次郎に興味を抱き、北康利著『白洲次郎 占領を背負った男』を読んでみました。GHQと激しくやり合いながらも、後年、「新憲法のプリンシプル(原理・原則・主義)は実に立派である。マッカーサーが考えたのか、幣原総理が発明したのかは別として、戦争放棄の条項などその圧巻である。押しつけられようが、そうでなかろうが、いいものはいいと率直に受け入れるべきではないだろうか」という言葉を残しています。誰よりもアメリカの押しつけに、国の代表として抵抗した人の冷静な意見だけに、重いものがあります。(石田賢二)



○一人でも多くの方々に関心をもってみていただきたいと思い、微力ながら取り組みました。原町区の上映実行委員会のチケットの係もさせていただきましたが、一枚の不明もなく務めを終えることができ、ホットしています。また映画については、その中で私達を守るために、日本国憲法草案をつくった先輩達の深い思いがどんなものだったかを教えてもらい、感謝お感激を新たにしました。世界で起こっている戦争が早く終わり、憲法九条に守られている日本の澄んだ青空が世界中に広がっていくことを願います。(井上由美)

○現憲法、なかでも第9条に対する考え方は人それぞれでしょうが、今後憲法について議論をする時、一度はふり返ってみる「原点」が『日本の青空』ではないでしょうか。その意味で、私達の出発はこれからだと思います。第9条を改変することによって、国民が失うものの大きさを訴え続けたいものです。(早坂吉彦)

○敗戦の日、ぼくの一家は、無理を言って貸してもらった上真野の農家の軒下から原町に帰って来た。上真野へは、8月9日の空襲で防空壕から5メートルの至近に爆弾が落ち、急遽逃げ出して行ったのだった。原町に近づいた頃は夜になっていた。町に入ったとたん、ぼくは「あつ」と声を上げた。あちこちの家に人が戻り、電灯の光が道までこぼれていたのだ。燈火管制下の真っ暗な夜だったのが、明かりが道までこぼれる夜に変わっていたのだ。「ああ、本当に戦争は終わったのだ。もうびくびくしないで暮らせるのだ」そう心から思った。この時の安堵感は今も忘れない。当時、国民学校3年生だったぼくは、「平和」という言葉は知らなかったが、戦争が無いことの嬉しさ、幸福感は全身で感じる事ができた。あの時の幸福感を守ることを国に求めた憲法九条、この平和憲法を守り育てることにこれからも力を入れたいと思っている。『日本の青空』、そう、戦争が終わった日の空も青かった。この青空をいつまでもと強く思っている。(菅野清二)



○映画『日本の青空』は、リアルタイムで私たちに憲法の成立過程を伝えてくれた。日が経つにつれて浮かび上がってくるシーンがある。幣原総理が「戦争はもうたくさんだ。日本は今後一切戦争をしないという決意を世界に示せばどうか。そうすれば日本をとりまく周辺世界も戦力をもたなくなつて、全ては理想的方向へ動く」とマッカーサー元帥に話していたと、GHQのホイットニー民生局長が窓際で後ろ向きで静かに回想してつぶやくシーンだ。徴兵され中国で闘った私の父は、戦争のことを問いかげられると今でも必ず、「戦争ほどバカバカしいものは無い。戦争はもうたくさんだ」と語気を強める。幣原総理の言葉は当時の日本国民の心の声そのものだったにちがいない。そして、それがそのまま憲法9条になったのだ。60年を経た今、最後まで天皇制と軍隊に固執し却下された日本政府の憲法に対する怨念が、息を吹き返そうとしていると思うと、いてもたってもいられない危機感に囚われる。

「戦争はもうたくさんだ。日本は戦争を放棄する」
国を守るという大義で散っていったたくさんの命に応えるためにも、
私たちは憲法9条を掲げ続けなければならない。(高橋美加子)



○日本国憲法の成立過程を分かりやすく描くことができていると思います。押しつけ憲法論の虚構性が、鈴木安蔵の活躍を中心とした自主憲法作成の事実を通して見事に描かれていたと思います。(岡田光生)